

中学校教科等研修講座(数学科)

教科等指導員 伊丹市立笹原中学校 教諭 古谷 俊樹

担当指導主事：村上 大介

キーワード：活用する力 小中連携 中1ギャップの解消

1 実施概要

| 実施月日 | 講師等 | 場所・形態 | 演題(またはテーマ) |
|----------|-------------------|---------------------|-----------------------------------|
| 11月1日(木) | 笹原中学校 古谷 俊樹 教諭 | 笹原中学校 授業研究・事後研究 | 「活用する力を伸ばす」授業の実践 |
| 2月12日(火) | 笹原中学校 古谷 俊樹 教諭 | 総合教育センター 講話および演習 | 「中1ギャップ解消のための小中連携 研修～算数から数学へ～」 |

2 主な内容

(1) “活用する力を伸ばす” 授業実践

① ねらい

発展課題である「星形多角形の先端の角の和」を図や式を用いて求めることにより、既習事項から発展させて答えを導き、活用する力をつける。

② 授業内容

多角形の内角、外角の和、三角形の外角の性質などを復習し、星形五角形の先端の角の和を求めることについて、まずは個人で考えさせた。次に、4人班を作り意見や考えの交流を行わせた。自分の考えを言えることができているか、教え合いをすることで理解が深まっているかを中心に確認しながら机間指導を行い、実物投影機を用いて考えを全体に発表させた。規則性を見つけるなど、発展的な考えに気づいた生徒を取り上げて全体で考えを深めることができた。

(2) 中1ギャップ解消のための小中連携研修～算数から数学へ～

現任校で生徒指導主事を担当して2年目を迎え、学校全体の不登校生徒について考える機会が増えてきた中で、「中1ギャップ」という言葉が気になった。そこで、算数・数学指導を通じて「中1ギャップ」を防ぐ手立てはないかと考えた。今回の研修では、前半は小中の現状やいくつかの手立てを紹介し、後半は情報交換から現状での課題や今後についての意見交換を小中の教員で行った。



3 成果と課題

(1) 成果

① 生徒が様々な考え方や発想で問題を解決しようとする場面が見られた。また、その考えを班や全体で共有し、理解が深まる場面をつくることができた。

② 小中の教員が連携することにより、「算数」と「数学」の関連性を認識することができ、「中1ギャップ」解消に向けて小中のチームとして取り組んでいく良いきっかけとなった。

(2) 課題

① 様々な考え方が出てきた一方で、それを全体で共有する際に、時間がかかってしまい、教師主導での説明が多くなってしまった場面があった。

② 今回だけでは到底解決できるような問題ではないので、引き続きさらなる研究が必要であり、小中の連携を深めていく必要がある。